

第3回 三朝町放課後児童クラブのあり方検討委員会 会議録

開催日時 令和7年6月26日(木曜日)午後6時30分～午後8時20分
開催場所 三朝町役場2階 第2会議室
出席者 委員8名(欠席なし)、教育委員会事務局2名

会議の内容

- 1 開会 午後6時30分(終了午後8時20分)
- 2 委員長あいさつ
事務局
委員長
事務局
委員長
- ・皆さんこんばんは。今日、夕方の報道で鳥取県は梅雨が明けるのではないかなというように私には聞いてないんですけど、ご存じないですか皆さん。もし、梅雨明けとなれば、空梅雨もいとこだったなっていう感じですが、この会もですね、今回で3回目となります。
 - ・当初のスケジュールでいきますと大体4回程度の開催を経て、方向性を出したいというようなことで進めてきております。
 - ・今日は限られた時間でありまして、皆さんから活発なご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。
 - ・それでは本日の会議の目安ですが、1時間半程度を予定しております。議題については、大きく2つ挙げております。
 - ・まず、先般、行ったアンケート調査の結果と、東学童クラブの保護者の意見について、追記分をまとめていただきましたので、それらについて委員さんの所見や御意見をお伺いするもの。
 - 又、②番にあります、答申に向けて、今後の放課後児童対策のあり方につきまして、各項目に柱を立てておりますので、今までの会議内容も含めて、ご意見をいただければと思ひます。
 - ・1つ確認ですがアンケート調査の結果は、事前に皆さんに渡してありますか。
 - ・はい。開催通知と併せて、各委員へ事前にお送りしております。
 - ・ということは、目を通していただいているわけですね。それでは1番目(1)①ですね、アンケート調査結果及び東学童クラブ保護者の意見についてということで、事務局から説明をお願いします。
- 3 議題 ①アンケート調査結果及び東学童クラブ保護者の意見について
◇資料説明(事務局より)
- 委員長
- ・続いて三徳地域協議会で東学童クラブ保護者さんの追加意見を取りまとめたいただきましたので、説明をお願いします。
- 委員
- ・はい。東学童の保護者の皆さんとしては、今の現状のまま、三徳センターで学童クラブを行って欲しいという意見が多数でした。
 - ・学習面の支援とかそういうものについては、それは保護者がするべきだというような意見もありまして、今の東学童クラブの保護者さんとしては、満足度が高いということで、皆さんから批判的なことで1つも出ませんでした。このまま東学童クラブを運営していただきたいというようなご意見が多かったです。以上です。
- 委員長
- ・ただいま、アンケート調査結果の全体のもの、東学童、西学童について個別の回答の特徴をざっとまとめた形で、今、説明をいただきました。

- 委員

 - ・それから、東学童クラブ保護者の意見ということで、追記になった部分も含めてまとめていただいています。事前に皆さんのところにこのアンケート結果をお届けしてあると思いますけども、それぞれの委員さんからその感想でも良いですし、或いは何か特別にこの意見に対しての考え方は自分はこう思っているとか、どんな表現でも結構ですので、お聞きしたいと思います。
- 委員

 - ・西学童クラブに対してですが、今までの反省を基により良いクラブ運営をしていこうと頑張っている過程途中であります。そういうところを評価していただいているというご意見というか、見てくださってるんだなど。その反面、先ほど、事務局から説明があったように、支援員と子どもとの関係、それから支援員と保護者との関係ということが非常に課題となっておりますので、さらにより良い学童クラブを目指すために、このアンケートを基に、支援員全体でしっかりと話し合っ、改善できるところを改善して少しでもより良い学童クラブに近づけるよう努力していきたいと思っています。だから、良いという評価をいただくよりは、むしろ今の私たちの現状をよく掘んでいただいている御意見だと思います。
- 委員

 - ・何となく外側から今の学童クラブを観た感じが、このアンケート結果に反映されているのだと思います。
- 委員

 - ・やはり、児童数が減少しているわけでありますので、今後、何年後になるか分かりませんが、1つにするべきではないかなというような気持ちは持っております。それが来年度なのか、再来年なのか、3年後なのか分かりませんが、急激に児童数が減るわけですから、その場合は、どうしても運営上、経営上、厳しくなるわけで、その点も含めて、あり方検討委員会として何年後、どういう条件になったら、集約することが望ましいというような見解を示していかなければならないのかなど。それが保護者の皆さんの納得できる条件というか、こういう状態になったからという条件を私たちで考えて答申していくべきなのかなと思います。
- 委員

 - ・保護者の立場からみると、東学童クラブでお世話になってるので、この意見見させていただいて、結構、共感できる場所が多かったですし、私もこの役になってなかったら、多分、残して欲しいっていう気持ちばかりだったと思いますが、実際に児童数が減ってくるっていう現状を見ていくと、やはり、いつかは1つになっていくところが必要になってくるのだなと思います。ですが、今の現状だけを考えると東学童クラブの保護者さんは、残して欲しいっていう気持ちが強いんだなっていうのが良く分かりました。
- 委員

 - ・この会の最初にも言いましたけれども、やはり、数年後には児童数が本当に少なくなってくる中では、2つを1つにというようなことも、どうしても出てくるかもしれないなっていうことは感じますけども、こういうアンケートの結果等々を見ると、今今、1つにせないけんかっていうもんでもないような気もしますし、結局、2つあってどちらかを選択できることを残しておきながら、両方とも魅力ある学童クラブになれば一番良いという、そういう状況を求めていらっしゃるのを感じますので、特に長期休業中のいろいろな取り組みについての差が出てくるのかなっていうのを感じます。今年、もうすぐ夏休みがやってくるんですけど、両学童クラブともそれぞれ考えられてイベント行事を企画しておられるようですし、そういうことを見ていただければと思います。
- 委員

 - ・私も東学童クラブ出身で、子どもも見てもらってたので、確かにこの意見に共感しました。なので、なくして欲しくないというすごい強い思いも感じる

など思うんです。しかし、運営上とか今後のことを考えたら、一本化なり、運営の仕方が変わっていくのも仕方がないのかなと感じますし、以前も言いましたけど、今ある状況に満足してる方たちに、今後のことを言われてもやはり今がとても大切な時間だと思うので、今後の先の見通しなり、もう少しビジョンを出してあげたほうが良いのかなと思います。

- ・この会自体が今後どうしようっていう会議なので、しっかりしたものは出せないのかもしれないですけど、何年後にこうこういう形にしますとか、何かしら見えてくると、今は変わらないってことに少しは安心してもう少し話を聞けるようになるのかな。ただ、やはり、先が見えない、来年がどうなるのか分からないという状況でのお話を聞かれてると思うので、例えば3年後にこういうふうに運営体制が変わります、さらに何年後以降はこうなります、そのままですとか、何かしらやはり見えないと、保護者としては、それこそ今6年生でもう終わっちゃう人は、さほど、今今が大丈夫だったら良いという方も多分おられるんですけど、1年生とかで預けておられる方や今の状況に満足してる人たちに、どうしますどうしますと言っても、やはり不安しかなくなっちゃうので、今の状況が当たり前なところに不安を蒔いているのかなとちょっと思います。もう少し先が見える何かを提案してあげたらなって思いました。
- ・三朝町の保護者の方はよく現状を見ておられるなどというのが第1印象です。良いところも悪いところも。かなり意識が高いんだなと思ってアンケート結果を見させていただきました。
- ・又、保護者意見の中に学習指導や生活指導は親がするべきとかっていう、これはアンケートじゃないんですけども、そういう言葉が出る保護者さんってかなり意識が高いんだろうなと思っていて、任せておけばいいやじゃなくて、ここは親の分野、ここは学童の分野っていうふうにちゃんと切り分けされてる方がおられるんだなっていうのはすごく三朝らしさという言葉なのかどうかかわからないんですけども、いい面だろうなと思って、この資料を見させていただきました。
- ・さっきも出てましたけど、今今を1つにするということが良いのかって考えると、私、北条に居ますけど、登録数が140人でさすがに多いなと思ってます。実際に来る子どもたちは100人程度ですけども、100人の子どもたちが集まってきたときに、みんなと一緒に何かしますよって動くことは実際、難しく、計画の段階からしっかり練らないといけないんだけど、したくないよっていう子どもの対応にも配慮すると小回りが利きにくいっていうのは絶対にあるんです。だから、人数の規模からして西学童が47世帯、東学童が36世帯ですので、規模としてはちょうど良いんじゃないかなというふうに見ています。
- ・将来的に児童数は減ってきますよね。これが6年経ったら半分ぐらいになってしまうんだと思うんですけど、その時にじゃあ20世帯でどうでしょうかっていうことで、さらにそこから進んで20世帯を切っちゃいましたけど、どうですかっていう、そのときに、考えるのも手なのかなというふうには思っていて、それが多分、今の2つを維持して欲しいっていうのが出ている根底にある部分かなとは思っています。
- ・ただし、少なくなってしまうと今度は運営自体がしんどいというか、子どもたちもいつも10人しかおらんわっていう中で過ごすよりも、もうちょっと規模感があつた方が楽しいのかなということも出てくるでしょうし、損益分

副委員長

岐って言葉が良いのかどうか分かりませんが、運営していく上で赤字にならないところがどこなのかっていうそういう視点を持って、児童数というか、これから1年生に上がってくる人数も把握されていますから、このあたりで、再編が必要になってくるかもしれないなみたいなものが提示できれば、今、利用されてる方も、これから利用される方も安心できるんじゃないだろうかなというふうに思います。以上です。

委員長

- ・ありがとうございました。今日ご出席の皆さんのアンケートに対する感想をお聞きしました。おおよそアンケート結果を肯定をしておられますし、いや、結果はこうだけでも、逆にこういう考え方をすべきではないのかという意見がほとんどなかったようにお聞きをしました。ただし、皆さんの御意見の中から共通してたのは、児童数が変化していくという、現在の数をMAXだとすればですね、これから増えていくということは想定はできなくてですね、現実問題として減少する。そして、減り方も激減していくことが皆さんも認識されていて、出生数がどうなっていくのかということもありますが、現在の2か所を肯定的に見ながら、将来的に児童数が減ったときに、そこに何らかの条件設定をしながらですね、方向性の中で、ある程度の規模になればというか、どうなのかその辺の設定をして、そういう段階になれば1ヶ所で開設することになる、例えば、そんな分かりやすい方向性を出しても良いのではないかなというふうに皆さんの意見で感じました。
- ・それから、今の皆さんの意見の中では、公設公営、公設民営の御意見は出なかったんですけども、それは次のところで意見を聞かせていただきたいと思えます。
- ・実際に現場で運営されている委員さんから、保護者の意識が高いというお褒めの言葉があったんですが、これはこれで、確かに意識が低いより高いというのは、我々も方向性を示したときに、ある意味、理解が深まっていくのではないかなという、そんな感じもしました。それから経営面でさっきも意見の話が出ましたけども、やはり運営というのが1つの経営ですので、その最小数といえますか、それは今、ここで論じてもしようがないと思いますが、間違いなく減っていくという、その辺をどういうふうに表現していくのかなという、そんな感じも受けました。そういったことでも、このアンケート調査方法を行ったことは、結果としては良かったんじゃないかなというふうに思いますが、その他何かこのことを言い忘れたみたいなことがあれば、どうぞ。

委員

- ・将来的に児童数が減っていくのは、間違いのない事実です。私が思うのは、その児童福祉としての学童保育という制度について、厚労省が所管されてて、親の就業を支援するために制度化されたものを運用しながら、その学童クラブという名前でもって運営している形ですよね。そうすると、その制度だけで物を考えると、確かに、竹田地域協議会も南学童クラブを運営していましたが、利用数が20人を下回ると、やはり採算的に運営できなくなりました。だから、もう当然、赤字まで出して運営することはできないから、閉所して西学童クラブに統合する形で今2つになっています。
- ・1つは、そういう学童保育という制度の中で運営をするのか、もう1つ、放課後児童対策という部分を加味して運営するときには、例えば町の財源をそこにつぎ込んででも、どういうあり方、やり方が良いのかって部分の検討を行う視点は考えておく必要があると思います。要するに補助制度でもって運営してください、採算が合わなくなったのでできなくなりましたという

のは、何かね、これから特に大事だと思うのは、学校のいろんな制度改革が進む中で、学校から家庭に帰るまでの時間をどのように、子どもたちに過ごさせるのかという大きな課題がこれからクローズアップされてくる中で、本当にその部分も加味したようなものの考え方をしていけないと、単純に20人を切ったら閉所して統合して1つにしようというだけでは何かすまないような部分があるのではないかという気がします。竹田地域協議会もそういう状況で、当然、自力で資金を用意して運営することできなくなったから、そういう形になりましたけどね。その辺の運営とか経営とかという部分では、本当に不足部分を継ぎ足してでも残した方が良いのかどうというのは、もうちょっと別の視点で考えていく必要があるかなという、実際になかなか、できないこともあるんだけど、その形として子どものためにはどうあるべきかっていう部分の根本をそこで、そのお金の話で決めちゃううちゅうことではない方が良いと思います。

委員長

- ・ありがとうございます。関連して良いご意見だと私は思います。つまり、制度があるということは非常に良いのですが、それが例えば子どもの数が減ったという理由だけで閉所してしまうという、こういう方向性はやっぱり問題があるように思いますし、先ほど言われたように放課後児童対策をきちっと三朝町はやっていくんだということを、今回の答申の中に具体的に盛り込んでいくべきじゃないのかなというふうに思うんですけど、その辺はどう思われますか。

副委員長

- ・先ほども言われましたけど、もともと学童保育と言われてましたよね、放課後児童クラブじゃなくて。何で学童保育が始まったかという、保護者さんが仕事をする上で、家に帰っても鍵持たせないといけないんだよねみたいな、子どもが増えてきたときに、じゃあ、その子たち集めて保護者が迎えに来るまで何かしますよっていう集まりがスタートだと私は思ってるんですよ。当初は、ほぼボランティアに近い形でスタートしたと思いますが、だんだんその需要が増えてきて、制度が出来てきて今の形になり、またそこにこどもの遊びの権利が入ってくるのかなって印象は持ってます。だから、最初は児童福祉の面がすごく強かったんだろうなと思います。
- ・今は第3の居場所とかって言葉があったりしますが、放課後児童クラブという括りだけではなくて、子どもたちが過ごせる場所を提供できるってことに町が乗り出せるかどうかってことが、この後、再編があるのかどうか分かりませんが、その先を見据えたところでは必要になってくるのかなというふうに思います。

委員長

- ・余談ですが、今日の午前中の会議で空き家問題について三朝町の地域おこし協力隊員さんと少し時間を取って、今の現状や取り組みについての前向きな考え方をお話をしました。その時に思ったのは空き家の対策を考える中で、三朝町も子育て世代の方々が、本当に三朝で子育てしてみたいと思うようなそういう動きも作っていかないと、両輪がないとですね、空き家のことだけ本気でやってみたって、新たに三朝に住みたくなるような町だと思ってもらう必要があります。例えば今の話にしても、子どもが少なくなったから、考えられたのかどうか知りませんが、町が本気で子どもたちのことを考えて、保護者にとっても魅力的だなと感じてもらうことが重要ではないかと思いましたが、違いますかね。そういう考え方は。

副委員長

- ・いや、そうだと思います。何がここに住む要素かって考えたときに、やはり子育て世代は、自分の子どもがそこで楽しく過ごせるかということと、自分

の仕事ができるかっていう、そこがうまくかみ合って、そこに关わる地域の人が子どもを育てるみたいな意識が育ってくると、うちの子なんだけど、周りの大人が見てくれて、それが学童の支援員である必要は特になくて、地域でたまたまそこに学童の支援員がいても、職員がいても良いんですけど、地域でこの子たちを育て上げていくんだよっていうところに繋がってくると、きっと魅力ある町になるのではないかと思います。

委員

- ・以前、保育園に勤めていたときに、小学校1年生、2年生ぐらいまで放課後に保育園で預かれないかなというように考えたことがあります。特に賀茂保育園は三朝小学校に近いので、帰りに寄って、もしかしたら妹や弟が保育園にいるんだったら、保育園は午後7時まで延長保育しますから、ちょうど良い時間だし、人数的にも段々少なくなって空き教室なんかも結構増えてきてる中で、そういう場所を提供できないかなということ考えたことがあって、実際そんなことができるんだったら、もう1つ、またその方法としてですね、選択肢が増えていくっていうかそういうやり方もあるのかなと。それが可能かどうか分かりませんが、同じ厚労省の中でね、実際、三朝町の放課後児童クラブは町長部局から事務委任を受けて、教育委員会が主務としてやってるわけで、他の市町は教育委員会じゃなくて、町長部局の児童福祉を所管する町民課や子育て支援課みたいところがやってますよね。同じその所管というか保育園もそうだし、全部を受け入れることは難しいと思いますが、低学年ぐらいまでなら、小学校の1・2年生になったお兄ちゃんお姉ちゃんが、妹たちを保育園で見ってくれるという、縦の繋がりというか、なかなか家に帰っても、子どもが少なくて、お兄ちゃん、お姉ちゃんという感覚が少ない中でそんなことが可能であれば、面白い取り組みになるなと考えたこともありました。

委員長

- ・面白いですね。事務局さん、今の皆さんのご意見の中で、幾つかの提案を答申の中にですね、我々の総意としてどういう表現が良いのかっていうことはちょっと考えながら、ただ現実の学童クラブをどうするのかっていうことだけではなくて、その将来に向けての町の姿勢をこんなふうにかうすべきじゃないのかというあたりを盛り込んでください。
- ・そうなる、先ほど委員さんが言われた、先のことがなかなか見えてないことに対して、そういう話を具体的に答申の中に入れていくと何かしら見えてくるのではないですか、どう思われますか。

委員

- ・とても良いことだと思います。地域の子どもは地域でということは子育て支援の施策にも挙げてありますし、その意味でもとても良い考えだと思います。ファミリーサポートセンターのような赤ちゃんを一時預かってくれる事業もあったと思いますが、学童ってという言葉に捉われなくても、そういう意味では広がりが見えると思います。今2つある学童クラブだけに対しての意見になっちゃってるので、広がってきたら、逆に見えない先のことでも選択肢が広がるってなったらそれはそれで良いのかなと思います。

委員長

- ・出発点は、現状を肯定しながら、2つで進むということになると思うんですけど、今後、一気に子どもの数が減ってくるとですね、もうたちまち1つにし、それ以上減ったらやめさすみたいなことではないですよ、我々が今の検討する内容は、何かあちこち脱線してますけども、元に戻ってですね、アンケートについては、そういう皆さんの総意であったっていうのを理解いただいたと思います。
- ・続いて、答申に向けた今後の放課後児童クラブのあり方についてということ

で、(1)の将来的な開設数と運営主体のあり方についてということで、皆さんからご意見をいただければと思いますが、いかがですか。

委員

- ・開設数と運営主体については、会議の中でずっと出てきていますが、公設公営、公設民営について、今の西学童と東学童が、まさにそういう形になってますけども、意見をいろいろ見てみると、西学童も民営化した場合の保護者さんの意見もですね、何か改善される動きが出るんじゃないかという期待感を持っておられるような感じを受けたんですけど、どうですか皆さん。
- ・公設民営という部分は確かに行政が直接関わると、なかなか自由度が制限されるっていうことがあるかと思えますし、そういう意味では民営という部分は自由度が高まるなとは思えます。ただし、これまでのアンケートなどでもそうですけれども、以前から学童に関わってきた中で保護者としてはね、選択肢があった方が良いというのがベースかなと思えます。
- ・要するに一本にしてしまうと、なかなかその中で、子どもたちの合う・合わない問題も出てきたり、そういう中で規模は小さくても、2か所とか例えば3か所とかっていうふうな形で選択できるのが望ましいかと。
- ・もう1つは民間企業に拘らず、地域の子どもは地域で育てましようという考えで、三徳地域協議会のような地域の団体が運営ができればと思います。ただし、これは理想的な話で、現実的にはなかなかそうはいかないかもしれないですけど、そういう形で選択肢が提供できて、地域との関わりが深い組織が運営するという方向性が良いのかなと思えます。

委員長

- ・今の委員さんの意見は保護者の選択肢があった方が良くはないかという、それは民営と公営という今の形ですよ。どっちがどっちということじゃなくて、つまり、2つの中の1つは違った形ということですよ。

委員

- ・公設民営の方式で複数あった方が良く。でないとそこにしか行けないという事は好ましくないということです。

委員長

- ・要するに公設民営がベースで、民営の中に2つ種類という…

委員

- ・私は西学童は現在、公設公営で指導、預かりを頑張っていますが、そういう頑張っている中でも、評価が低くなってしまいうのは、その上乗せ部分ね、行事が少ないとか、体験イベントが少ないとかっていう部分が、その比較の中で評価されてしまっている。それが公設公営もできる要素があるんだったら、別に経営方式は問わなくても良いのかなって思いますが、それは行政側が困難だということであれば、公設民営の方が人気が高いわけだし、自由度が高いからそっちの方に方向転換するっていうのは、仕方がないことだと思います。

ですから、問題はそこの取り組みの中身が、簡単に言えば、人気があるか・ないかっていうことに繋がっているのではないかなと思えます。

だから、その公設民営の方式と預ける保護者の方は選択肢があった方が良くかなということですよ。

元々、スタートのときに、西小の学童は規模が多すぎて、そこから、あまり人気なかったんで、南学童の方まで来る子もいたんですよ。それだけ距離感というものを超えてでも、そういうところに預けたいという思考が働いていたのかなと思えます。そういう意味で、どうしても会う・合わんっていうのが出てきたときに、1つよりは、2つの選択肢を取れる方が良くかなと。

委員長

- ・副委員長は前回、そのようなお話をされてましたよね。

副委員長

- ・そうですね、やはり選択肢はあるべきだと思います。合わないときに利用できなくなるというのが一番困ることで、合わなくなったときに、次の受け皿

という言葉が良いのか分かりませんが、次の行き場所があるっていうのはすごく、保護者にとってもストレスないですし、子どもにとってもストレスがないですし、支援員にとってもストレスが減るんですよね。

- 例えば、A君とB君は仲が悪いのに、一緒に同じところになきゃいけないっていう状況を支援員が見てるっていう、かなりなストレスです。でも、C君と仲が良いから、C君のほうに行くよってなっただけで、A君はストレスなくなりますし、支援員もストレスないし、保護者だってストレスがないわけで、子どもの幸せを考えたときにはやっぱり選べるっていうのは、絶対に必要なことだろうなと。
- 運営の体制が民営なのか公営なのかっていうところについては、ちょっとどうかなと思う部分があって、公を民にしたら、大きく変わりますよっていうのは、もしかしたら幻想なのかもしれないっていうところもあるんです。結局、人なんです。そこで働く人がどうなのか。ただそこが公営なので、リミットがかかって制限されるものがあるって、抑えられてる部分があるとしたら意味はあるかもしれないけれども、民営になったとしても、この人はちょっとねっていう人であれば、民になってもあまり、効果はないかなというふうに思います。要はその支援員という人がどういう人なのか、その人をどう育てていくのかっていう部分のですね、その組織とか何か仕組みも背後では必要かなと思います。

でも、複数あるっていうのはすごく良いと思います。その方が良いと。

事務局

- おっしゃるとおりだと思います。西学童クラブも現在、改善にむけて頑張っておられますが、これが5年後、10年先も続けられるのかどうなのかっていうところになると、先ほどの人材の話になってきますので、そこまでの見通しは立たないということです。それであれば、民営化して人材確保も含めて同じサービス水準が提供できる体制の方が、適切かなというのが事務局としての考えです。

委員長

- 中山副委員長さんがおっしゃった方向性についてはどうですか。そうだと思いますか。ご意見があれば、どうぞ。

委員

- 単純に、民だと人材が集まって、公だと人材が集まらないっていうことであるんですか。要するに人材確保は公だと難しいっていうことってどういうことなんだろうなと思いますが。

事務局

- 先ほど、副委員長がおっしゃったように、最低限の国基準の運営で良ければ公でも構いませんが。

委員

- 実際は同じように公でも民でも募集をかけて面接をするわけですが、民だといわゆる人材育成ということイメージしながらの雇用ということだけでも、公ではその部分が弱いということですか。

事務局

- 育成プログラムというのは行政にはありませんので、研修も外部団体が主催する研修に参加しています。町職員にも専門的知識を有する者がいるわけでもないのです。

委員

- そのこのところでね、三徳地域協議会でもその話が出たんですよ。今の支援員さんがこの先5年後、10年後も同じような働いていただけるかっていうと、かなり高齢化してるんですよね。

委員

- すいません。公営でも民営でも、先ほど人材というのが出ましたけど、私も全く同じ考えです。やはり、リーダーシップをしっかり指導の中で、支援の中で、持てる人がいるといたいのとは全然違うと思います。運営をまとめていける力、いろんなアイデアを出せる力、そういう部分が西学童が弱かつ

たので。いろいろ気付いたことは改善のアドバイスをしていますが、なかなかね、徹底できないっていうか、そういう面があるので、リーダーというか、支援員の中で強いリーダーシップを持つてる人がいる組織でマネージャー的な役割をしてくださる方がいれば、支援員も育成できると思います。

- ・事務局も言われましたが、これまでも町でも人材確保の募集をかけてくださっていますが、応募がなくて。私も高齢で体がしんどいですし、若い人のようにはいかないのです。
 - ・開設数については、このアンケートの結果から見ても、やはり東、西、現行のまま開設して、私も民営化の方が、支援員の体制も再構築されて、新しい考え方で良くなる可能性はあるのかなと思っています。
 - ・それから、前回の会議であったように、面接以外にも人づてで支援員が集まりやすいということもあるなら、なかなか支援員さんが集まらない課題も改善されるのではないかなと思いました。
- 委員
- ・人材の確保については、おそらく民間の方が間口は広いと思います。確保できるかどうかについては、皆さん、お仕事として選ばれますので、条件が結構厳しいんですよ。放課後児童クラブでは8時間働けないので、民間企業としてはなかなか難しい部分もあって、ただ、その一方でその時間ならできますよっていう人を人づてに見つけてきて、この人を採用したいんですけどっていう相談はできます。知ってる人ですから、人となりもわかりますから、この人は子ども接するのに適してるなどか、適さないから無理に誘うのやめようかなっていうのは、事前にできるっていうところはあります。だから北栄町では、副業してる人だったりとか、学生だったりとかっていうところが今増えてきてるっていうのは、その裏返しでもあるかなと思います。
- 委員
- ・もう1つお聞きして良いですか。北栄は公営から民営に移行されたんですけど、例えば保育料とか保護者負担というのは変わりなかったんですか。民営化されて保育料は上がったけど、それは町が補助したとか。
- 副委員長
- ・いえ。あくまでも町から委託ですので、プロポーザルのときに複数年契約で、トータルでこれだけですよというのを提示します。それが何社かあって、いろんな点数の中で決まりますので、保護者の負担がそこで増えるとかっていうことではなくて、町が業者に支払う金額が確定するというそれだけです。
- 委員長
- ・はい。ありがとうございます。2つ目の項目にすでに入っておりますけど、安定的に継続性のある運営とサービス提供の標準化について、やはり、皆さんの意見をお聞きすると、安定的で継続性の部分においては、民営なのかなというところに行き着いておるようですけど、そういう認識でよろしいですか。いや、そうじゃないよっていう意見があれば。
- 副委員長
- ・民営の1つの強さっていうのは、先ほどもありましたけど、人を育てるための仕組みが作りやすい。あるってことじゃないですよ、作りやすいってことで、長い目で見れば多分、民営の方が良いと思います。ただし、人材がすぐすぐ見つかって、劇的に変わるかっていうと、そこは、その時その時で違うかもしれません。
- 委員長
- ・一応、最終的なまとめを次回でやるんですけども、今後3回目の集約としては、そういう共通認識であったということでもよろしいですか。
- ～ (一同、同意) ～
- 委員長
- ・はい。ありがとうございます。では、次ですが、三朝らしい学童クラブの活動と地域参画について、もうすでにいろいろと関連した意見が出ておりますけども、何か皆さんの方からいかがですか。

- 委員
- ・ 支援員の配置について、国の基準があるんですけど、その国の基準には達してないんですけど、支援が必要というか、見守りが随分と必要な子どももいるんですよ。そうすると、今の国の基準だと全然、支援員が足りなくなってしまう。そうすると人を追加配置しないといけない。でも、人を増やすと、経営的に今度は難しくなってしまうっていうジレンマがすごくあります。だから、このあり方検討会の方向性として、町を挙げて安心安全な放課後児童対策の施策展開に繋げることが出来れば良いのかなと思います。
- 副委員長
- ・ まさにそのとおりです。国の最低基準というのは本当にぎりぎりの支援員の配置数なので、そこで計算してしまうと、絶対に足りないんですね。いわゆるグレーゾーンとよく言いますが、グレーの幅が今、どんどん広がってるんですよ。その中で今日はこの子に付いていなきゃいけないっていう状態があるし、次の日になったらその子じゃない子がそうなるっていうことも当然にあって、そこに対応しようと思うと、国の基準の1.5倍くらいの人員がないとしんどいですね。これが人数の規模にもよるんですけど、30人だったらいけるかもしれない。でも、これが100人になると、そういうための配置の人が2人、3人いないと、単純に3倍になってきますからね。もう、落ち着いて過ごしたい子どもたちが落ち着いていられないっていう状況にもなってます。そこを支援員が見れるかどうかですよ。そこまで配置する人件費が出せますかっていうところで、前回、お話ししましたが、僕は結構、会社とバチバチやってるわけですよ。その経費は絶対切っちゃ駄目だと。もう駄目だって言っても、人を付けるからねって言っちゃってますけど、そのような現状です。
- 委員
- ・ いつも学童の勤務は4時間勤務とかですけど、4時間15分。万歩計をセットしていますが、勤務が終わったときに、1万1,000歩ぐらいで、やっぱりね、本当に気になる子どもは、とにかく目が離せないの、しばしば施設から抜け出すこともありますから。それでもケガや事故があってはいけないので、それを支援できるサポートというか支援員を増やしていただければ、それはその子のためもあるし、預けている支援員の方も安心ですし、他の子も見守りが手薄にならないので、安心安全な面からも、配置いただけるようなら、1人の支援員としてはありがたいなということを毎日実感しています。
- 委員長
- ・ はい。他にありませんか。今、子どもと支援員についての意見がありましたが、支援員と保護者の関係についてはいかがですか。
- 委員
- ・ 私は子どもを学童に預けてますが、迎えには行けてなくて、祖父が迎えに行ってくれて、今日は学童でちょっとこういうトラブルがあったよと教えてくれるのですが、さっき言っておられた、トラブルがあったときに何か連絡の手段というか、本当に支援員さんとお話する機会がなくて、多分、我が家だけじゃないと思うんですけど、実際に御家族に迎えに行ってもらってる家庭もあるだろうし、何か支援員さんとの連絡ができたかなと思います。学校はまちコミで今日は欠席しますとか連絡ができるし、今日はちょっと体調がこうなのでっていう、まちコミでは簡単にできるんですけど、学童はそこがちょっとできなくて、どうしても電話とかになると私は知っておられる方ばかりなんで電話でも気軽に話しやすいですけど、やっぱりそこで支援員さんは手を取られますし、後ろでは子どもたちがワーッとなってますし、そういう感じになっちゃうので。急ぎでないことでもちょっとまちコミとか、そういうラインじゃないんですけど。
- 副委員長
- ・ 北栄はショートメールを使っています。記録が残るのと、職員がバタバタし

- てて、電話がかけれないときでも連絡できるので。
- 委員長
- ・ありがとうございます。時間も過ぎてきておりますが、すみません、私この後ろの資料の見落としがあつてですね、地域団体・人材の参画及び関わり方とか、施設環境の課題や改善について、これらに関係したご意見がありましたら、ちょっと時間が少ないんですけどいかがでしょうか。
- 事務局
- ・前回の会議でも地域コミュニティとどう関わっていくかということと、今の西学童クラブで言えば、空き教室をどう活用していくか、そういったところのご意見をいただければと思います。
- 委員
- ・施設環境の課題や改善についてですが、東学童クラブで検討したのは、子どもの居場所ってすごい大切だなと思っていて、学校に行けば、きちんと自分の机がありますよね。あそこは居場所なんですよ。子どもたちにとって自分のスペース。だけど、学童って自分のスペースがない。だから自分の居場所っていうか自分だけの場所っていうのが学童にはないので、それ作ってやりたいなっていうも思っていました。ですから、ちょっと机を購入しようかと話をしたことがあって、それぞれの自分の机を並べて、そこで勉強もすりゃ良いし、本を読みたい人は本を読んでも良いし、遊びたい人は遊べば良いんだけど、なんかね、そういう場所ってすごい大切なような気がしたんで。だから今後、旧三朝小校舎の環境改善の整備するんだったら、ロッカーももちろんそうですけど、プラスそのような整備を考慮してもらえたらなと思います。
- 委員長
- ・将来に向けての意見として事務局は受け止めておいてください。
- 副委員長
- ・北栄は1年生から3年生までは、場所を決めています。ここに座ってねと。それで定期的に席替えをするんですけど、子どもたちの意見聞きながら、とりあえずここでやってみようかと。上の学年はしてないです。上の学年はもう好きなところどうぞっていうことで。初めは教室形式で机を並べたんですけど、なんかつままないよねっていう話になって、職員がミーティングして机を片づけようと思ったら、子どもたちが下校して施設に来てしまった日があつて、その時の机の配置にすごい喜んだんですよ。それから、毎日、机を好きな形に変えながら、壁に向かって勉強やるの子もいるし、真ん中でゲームしてる子もいるし、自分の居場所っていうのが大事だなと思います。低学年はとりあえず勉強はここでしようねっていう場所は作ってますけど、遊びの時間になると、机を角っこに動かして三角の空間を作って、好きな子たちとそこで遊んでいます。
- 委員
- ・それは一人ひとりですか。
- 副委員長
- ・いえいえ、長テーブルです。そこに名前を書いてテープで貼って。とりあえず、そこに座れば落ちつけるので。遊ぶときは好きにどうぞという感じで。
- 委員
- ・椅子もありますか。
- 副委員長
- ・高学年は椅子があります。低学年は低い座卓を使っています。
- 委員長
- ・この項目は提案ですから、今日ですべてっていうわけじゃなくて、また気づかれたところがあれば、次回でもこの施設環境の課題や改善点については、ご意見をいただければと思います。その他、ございませんか。
- 委員
- ・地域参画の部分について、コミュニティスクールとしては、学校主体の組織ですので、放課後児童クラブの中にどういうふうに入っていくかというのは、何かまたちょっと違う視点で考えなきゃいけないだろうかなと思うんですけど。ただ、今年の夏に動こうとしてるのは、西の学童クラブにボランティアで登録していただいている学習支援をしますよっていう方に入っても

らおうかなと。小学校にはなかなか入っていただくチャンスがなかったの
で、夏休みを中心に短時間でも入っていただいて、子どもたちと関わって
もらうような仕掛けをしようかなってことで今、動いているところです。

・民生委員さんは、夏休みは学童さんにご飯作って食べるみたいな動きが地区
ごとにありますよね。これも1つの地域との関わりというか、そういうのも
かなあってのもありますよね。

委員

・どちらから声をかけるかということも大切ですね。

委員長

・そのあたりをマネジメント出来る方が誰かいれば、もっともって参画しやす
い環境になるのではないかなと思います。

・こういう会議で期間を空けながらやる会議ではなくて、日々の動きを見なが
らマネジメントできるようなそういう人ですよ。こういう人材が必要だと思
うんですよ。

・いろいろ今の活動の中で考えられることと、それから、ちょっと知恵を出し
ながら、いろんな人たちを組み合わせるとか考えてみましょう。

・いつものように、また、今日の内容を少しまとめていただいて、最終回にな
るんですか。答申案を準備して最終回を迎えるという、そういうことになる
んですね。

事務局

・はい。今までの意見を踏まえて答申案を作成しますので、それを基に肉付け、
修正をしていただき、最終案としてまとめたいと思います。

委員長

・では、今、事務局からありましたけども、次回は答申のたたき台を作ってい
ただいて、それを肉付けなり、或いは修正等を加えて、最終答申というもの
にまとめるということ、4回目の最終回に行いたいと思います。

委員

・このアンケート調査は保護者に返しますか。

事務局

・後日、町のホームページやまちコミで公表を考えています。

委員長

・次回の開催予定日はどうですか。

事務局

・8月頃を予定させていただければと思います。

委員長

・ありがとうございました。今日の会議は事務局さんにまとめていただいて、
次回の最終回を迎えたいと思います。皆さんの方で何かありますでしょ
うか。なければ終わりたいと思います。

ありがとうございました。

以上